

特定非営利活動法人
アユス仏教国際協力ネットワーク
2024 年度会員総会



2024 年 6 月 13 日 (木)
於：長専院／オンライン

次第

開会の言葉
理事長挨拶
定足数の確認
議長選出
議事録署名人選出
議案審議
議長解任
閉会の言葉

議案

第一号議案 2023 年度事業報告・決算案
第二号議案 2024 年度事業計画・予算案
第三号議案 役員改選
その他 報告

資料

2023 年度事業報告
2024 年度事業計画案
2023 年度監査報告書
2024 年度役員／専門委員
2023 年度決算報告
2024 年度予算案

【中期計画の5本柱】(2022-2024)

1. 社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO をめざす。

● 2023 年度方針

仏教者・NGO・市民をつなぐハブとしての実績を発信し、アユスが相談先として認知されるよう努めます。なかでも、国内外で自然災害や紛争が起きた時の支援を受け入れる窓口として迅速に動けるよう、NGO など市民グループの情報収集と支援体制の構築に力を入れます。

● 2023 年度報告

- ・相談先としてのアユスが周知できていない
- ・実績の広報を強化する必要がある
- ・緊急時の支援を受け入れる窓口として活動している団体の紹介をおこなったが、具体的な支援につなげられていない。
- ・能登半島地震の際には、専門委員の紹介によって新たな団体と連携することができた。

2. 不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光があたっていない人たちや課題に光を当てている活動や、活動している人たちを応援する。

● 2023 年度方針

NGO 組織強化支援を NGO ソーシャルチェンジ支援に改編し募集を開始します。緊急救援・街の灯支援・社会変革の支援を三本柱とし、紛争や格差が広がる時代の中でも特に光があたっていない人たちや課題に注目して社会課題の解決の一助となれるよう努めます。また、セミナーなどでの情報発信を通じて、資金でない形でも協力し、少しでも多くの人たちに光があたるよう取り組みます。

● 2023 年度報告

- ・「NGO ソーシャルチェンジ支援事業」が開始された。
- ・同事業の目的を明確に伝える課題がある。
- ・『街の灯』支援事業への応募や問合せが増えた。
- ・いくつかの立法に関するセミナーを開催し、課題を生み出す社会構造を明らかにする試みをおこなった。
- ・資金協力が終了した課題であっても、セミナーの共催などを通じて光を当てることができた。
- ・アユスが関わる課題が多様化しているために、全ての協力事業を継続的にフォローしきれていない。

3. アユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

● 2023 年度方針

オンラインや対面でのセミナーやイベント、ウェブなどの媒体を活用した情報発信、交流を行ないます。ロシアのウクライナ侵攻は非暴力な手段による問題解決への希望を妨げ、加速化する気候危機は私たちの日常にも影を落としています。戦争や気候危機、分断や格差など、現代社会が向き合う課題を地球規模や地域の視点など様々な角度から学び考える場を持ちます。

特にパンデミックの中で見落とされがちであった課題や、支援から取り残されている人たちに光をあてつつ、現代社会の分断や不寛容を、仏教系 NGO として宗教の視点からも問い直してみたいと思います。

● 2023 年度報告

- ・現代社会の分断や不寛容を見直す取り組みは、年度末のセミナーでおこなったが、宗教の視点を取り入れきれなかった。
- ・時局に沿った課題は専門委員やパートナー NGO の協力のもとにセミナーを開催し、理解を深めることができた。
- ・対面の交流は関西地区で再開。アユスを軸にした人の交流の活性と対面／オンライン共に参加者のフォローが課題。

4. より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アユスの活動資金の安定化を図る。

● 2023 年度方針

2022 年度に作り始めたファンドレイジング戦略を完成させて実行しつつ、支援者の拡大とフォローに努めます。特にアユスと親和性の高い仏教者や組織が参加しやすい方法の提示と働きかけに注力します。

2023 年度は、創立 30 周年に当たるために 1 年間を通して 30 周年支援者拡大キャンペーンを展開します。30 年の経験をまとめて紹介し、アユスへの信頼度を高め支援者を広げます。

● 2023 年度報告

- ・寄付や募金の働きかけの年間スケジュールの見直しをおこない、寺院関係者に 1 年を通じて募金活動に協力してもらえるよう、募金箱やポスターの送付の時期を早めた。その結果、少しではあるが反応があった。
- ・30 周年にあわせた支援者拡大キャンペーンの実施は準備不足で計画通りにできなかったが、年度末の周年行事に向けて 30 周年記念指定募金を行った。

・緊急救援募金と年末募金の時期が重なり、双方とも呼びかけが中途半端になった。

・30周年を機に、設立に至った経緯や当時の仏教者の社会活動への思いと熱意を紹介し、アユスの存在意義を伝えることができた。今後はそれを伝えていく必要がある。

5. 次世代の仏教者や市民がアユスの担い手となる仕組みをつくる。

● 2023年度方針

活動の幅が広がり、組織運営が安定することをねらって、役員と事務局の共同体制を強化します。またインターンシップ制度が年度内に始まるよう、準備を進めます。

役員・専門委員の交代がスムーズに行えるよう、制度の見直しを図ります。

● 2023年度報告

・インターンシップについては、他団体の共同を図ろうと仏教NGOネットワークと検討。方向性は合意できたが、実施にはまだ時間がかかる見込み。

・役員と事務局の共同体制は、「NGO ソーシャルチェンジ支援事業」実施においては整いつつあるが、その他の面では事務局に余裕がなく取り組めなかった。

・役員と専門委員の制度改定には取り組めなかった。

2023年度アユス事業報告

創立30周年を迎えた2023年度、アユスはNGO支援事業の柱のひとつであった「NGO組織強化支援」（設立当初の名称は、NGO人材支援）を終了して、新たに「NGOソーシャルチェンジ支援事業」を開始した。

これまでアユスは、日本社会においてNGOの働きや意義が認められ、幅広い支持のもとに国際協力活動が展開されることをめざして「NGO組織強化支援」をおこなってきた。特に社会的に弱い立場にいる人たちのために活動するには、補助金や助成金に縛られずに自由に活動できる組織力が求められる。アユスは、まずは組織基盤を強化すること、そのための「人」を応援することから支援事業を始めた。

しかしこの30年を経て私たちを取り巻く社会状況は大きく変化してきた。日本国内においても格差が広がり、様々な社会課題が顕在化している。その課題の多くは国際的な関係性の中で生じており、問題の原因が分かりづらく、課題解決への取り組みも多様化している。

そのような中で、海外と日本のつながりを念頭に置いて、課題解決のためには社会の仕組みを変えようとする活動を応援するのが「NGOソーシャルチェンジ支援」である。この事業では、少数派など声を上げづらい人たちの声を社会に届ける、見落としがちな課題に目を向け私たちの価値観を変えていく、社会システムを変革していくなどと、社会をより住みやすい場にしていくための活動を応援する。

一方で、必要な時に必要な支援ができるよう、時局対応支援の予算確保と支援先選定の重要性を痛感させられる年でもあった。ミャンマー、ウクライナに続き、パレスチナ・ガザ地区で深刻な人道危機が起きており、緊急募金を呼びかけて多くの方に協力いただいた。緊急事態が長期化する中、中長期の視野を持ってパートナーNGOと支援活動について議論を重ねている。

また、能登半島地震に際しては会員の方々から情報を寄せていただき、福島での経験を活かした支援を行う飯館村の市民グループともつながったが、現地にまだ足を運ぶことができていない。

研修ネットワーク事業では、NGOがアドボカシーに力を入れる入管法改訂やGX推進法などの法整備の諸問題、関心が薄れがちなアフガニスタンやミャンマーの状況、あるいはガザ地区への注目の陰におかれるレバノンのパレスチナ難民など、アユスが伝

えたい課題を扱った。計画していたテーマ全てを取り上げられなかったが、各分野に精通した専門委員やNGO、会員の協力を得たことで、内容を深めるだけでなくネットワークを広げることもつながった。オンライン上の企画だけでなく、東京では総会、関西ではトルコ・シリア地震の報告にからめて数年ぶりとなる関西交流会を開催し、実際に支援者・NGOの方々顔を合わせて交流したことは、参加者を始め、アユスにとってもネットワークの強みを感じられる場となった。

組織運営では、財源を安定化させて協力事業を増やすことが目標だったが、年間を通じた資金調達計画の策定が遅れ、緊急募金や新人賞を応援するクラウドファンディングの呼びかけなどとの兼ね合いが難しく、アユスへの支援の呼びかけが明確なメッセージとして伝わりにくく目標を達成できなかった。それでも、30周年記念募金には多くの方にご参加をいただいた。

年度末にはアユス賞授賞式とあわせて30周年の記念式を開催し、のべ90名近い方にご参集いただいた。団体設立メンバーでもあり仏教界で現在も活躍の特別功労賞3名の方から設立の原点を伺うことができたほか、大賞受賞者が『共生』は簡単ではない。人間はみな違っているからこそ摩擦や対立が起こる。違う者同士がどうやって理解し、互いを尊重しあうかの営みに共生の意味がある」と語った講演は、世界で分断が深まり不寛容が広がっている今、アユスが伝えたいメッセージを代弁するものでもあった。新人賞3名も児童労働、気候変動、紛争予防とそれぞれ異なる分野でありながら、互いの活動にも関心を寄せ、エールを送りあう機会ともなった。

以上のように、異なるフィールドで力を尽くす人たちがアユスを通じて出会い、また社会を良くするために何かしたいと思う人たちに様々な活動を紹介していく「社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持ったNGO」として果たすハブの役割が少しずつ具体的に見出せた30年の節目となった。

1. 国際協力等を行うNGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO支援事業）

1) NGO組織強化支援

国際協力NGOが自立した経済基盤を築き、円滑に活動できるように、運営管理や事業遂行の知識、技術、ノウハウを身につけられるように、組織強化に資す

る活動を支援する。

▼報告

「JFCネットワーク」への継続支援を行った。

2022年度で支援が終了した「アクセプト・インターナショナル」からは、支援期間中に収入を大幅に増やすことに成功し、事務局スタッフの拡充や組織体制の整備が進んだ現状について説明を受けた。

2023年度をもって事業を終了することに伴い、オンラインシンポジウム「NGOの組織強化はなぜ必要か-現状と課題、NGOの可能性を考える-」を2024年2月6日に開催した。それに向けて、設立時の関係者へのヒアリングや過去の支援実績の調査／分析を行った。

1) NGOソーシャルチェンジ支援

国際協力NGOが実施する、社会の構造的な問題の是正や解決をめざす「ソーシャルチェンジ（社会変革）」につながる事業を支援する。

▼報告

2024年度からの支援開始に向けて募集を行い、選考の結果、「熱帯林行動ネットワーク」の「紙製品を取り扱う日本企業に対する調達方針の策定と人権DD（デューディリジェンス）の実施に向けた働きかけ」を支援することに決定した。

2) 『街の灯』支援

誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標（SDGs）」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組むNGO／NPOに協力する。

▼報告

2023年度より次の2事業を新たに協力することになった。

・「非正規滞在家族の正規化に向けた取り組み及び生活支援事業」Asian People's Friendship Society / 「グアテマラ農村部での子どものための土曜学級」日本ラテンアメリカ協力ネットワーク

また、以下4事業を継続支援した。

・「日韓みらい若者支援事業」アジア・コミュニティ・センター21

・「ふくしま移民女性エンパワメント・プロジェクト」福島移住女性支援ネットワーク

・「水俣市内外での水俣病患者を対象にした「相談サロン」の実施」水俣病センター相思社

・「モザンビーク共和国ガールボベルカド州テロ被災者支援及び平和教育活動」モザンビークのいのちをつ

3) 時局対応支援

国際協力 NGO が紛争や自然災害時に、被災地での救援・復興活動を迅速にかつ円滑に進められるよう、資金面や物資調達などにおいて支援を行う。また国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動の実施にも協力する。

▼報告

●アフガニスタン：「女性たちの学校」にユナイテッド！女性教育制限下の「学校」という決意、希望 -」

・実施団体：平和村ユナイテッド
女性が継続して中等教育を受けられるよう、インフォーマルな教育施設の運営。

●チッタゴン丘陵地帯・バンダルバン避難民への食糧配布支援活動

・実施団体：ジュマ・ネット
武装グループの台頭により発生した国内避難民への支援活動。

●ミャンマー、クーデター後の人道危機を巡る諸活動への参加協力

・「# ミャンマー軍への資金源を断て」への参加
(参加団体：メコン・ウォッチ、FoE Japan、日本国際ボランティアセンター、武器取引反対ネットワーク)

●ロシアのウクライナ侵攻

・実施団体：チェルノブイリ救援・中部
ジトーミル州ナロジチ地区の学校における水道設備改善事業
・実施団体：日本チェルノブイリ救援基金
国境の町ウジホロドに逃れている非難民の越冬支援。

●トルコ・シリア大地震

・実施団体：パルシック
シリアの地震被災地における学校校舎修復事業。

●パレスチナ・ガザ緊急支援

10月7日より激化したイスラエルによるガザ地区への攻撃を受けて、緊急支援に協力。ただし、状況の改善が見られない中、関係団体と情報交換を重ねながら適切なタイミングを見計らっている。2023年度は、次の一件に協力。

・実施団体：パルシック
避難場所での仮設トイレの設置と女性組合への現金給付事業

●能登半島地震緊急救援

・実施団体：阿武隈クラブ IITATE
福島県飯館村での経験を生かして、珠洲市を拠点にした産業復興活動。

●東日本大震災

・実施団体：FoE Japan
福島県猪苗代町で開催される「ぼかぼかプロジェクト」
・協力団体：二本松有機農業研究会 / APLA
営農型ソーラーシェアリングの取り組みを生かした活動を開始した二本松の人たちとの交流の継続

●時局対応支援実施体制づくり

緊急時に迅速に対応できる体制を整える予定だったが、時間が取れずできなかった。ただし、ハワイ・マウイ島火災、モロッコ地震、リビア洪水については、支援団体先をウェブサイト上で紹介した。

4) アーユス賞

日本の国際協力 NGO 活動で多大な功績のあった NGO 関係者に NGO 大賞（茂田賞）、今後の国際協力 NGO 界を支えていくことが期待される有望な人材に対して NGO 新人賞、仏教の縁に基づいた国際協力や地域作りを志しアーユスの活動に対する多大な貢献や協力があつた寺院もしくは個人に対して特別功労賞を授与する。

▼報告

●受賞者

・アーユス NGO 大賞 郭辰雄さん（コリア NGO センター代表理事）
・アーユス特別功労賞 戸松義晴さん（浄土宗心光院住職） / 長谷川岱潤さん（浄土宗戒法寺住職） / 大河内秀人さん（浄土宗見樹院 / 寿光院住職）
・アーユス NGO 新人賞 川村祐子さん（ACE）、小出愛菜さん（we Re:Act）、高橋みづきさん（アクセプト・インターナショナル）

●授賞式

3月13日 本立寺（東京都品川区）
30周年記念行事としてオンライン併用で開催。

2. 国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（研修・ネットワーク事業）

1) 研修・研究・啓発

2023年度は、いのちのつながりをグローバルに考え、持続可能な社会を志向する人の輪が広がることをめざした。国際協力の軍事化（政府安全保障能力強化支援（OSA）の議論）、気候危機、非暴力などそれぞれの課題を扱った企画は行なったが、仏教 NGO としての視点は十分に提示できなかった。但し、専

門委員や会員の協力を得て開催されたセミナーが複数回できたのは、内容の広がりや深みを生み出すことにつながった。

(1) セミナー／啓発

●主催事業

- ・総会セミナー「終わらない311 福島から」
実施日：6月15日
登壇者：満田夏花さん (FoE Japan)
- ・連続セミナー「その方針／法律は誰のため？」
ファシリテーター：寺中誠さん (アーユス専門委員・東京経済大学)
① GX 推進法 7月7日 満田夏花さん (FoE Japan)
② 入管法改定 7月18日 赤坂むつみさん (難民支援協会)
③ 政府安全保障能力強化支援 7月24日
今井高樹さん (日本国際ボランティアセンター)
- ・トークイベント「NGOは菩薩行だ！」
実施日：9月19日
登壇者：大菅俊幸さん (SVA)／松本智量 (アーユス)
- ・専門委員セミナー
「市民が創る平和に向けた取り組み～ウクライナへのクラスター爆弾供与が意味するもの」
実施日：9月26日
登壇者：目加田説子さん (アーユス専門委員・中央大学)
- ・街の灯トーク
「アフガニスタンの地下女子教育に光を」
実施日：10月5日
登壇者：小野山亮さん (平和村ユナイテッド)
- 「パレスチナ難民 ーレバノンに光を当てる」
実施日：3月22日
登壇者：田浦久美子さん (パレスチナ子どものキャンペーン)
- ・海外の現場から「一歩引いて考える、パレスチナ／イスラエル問題」
実施日：11月13日
登壇者：今野泰三さん (アーユス専門委員・中京大学)
- ・30周年記念トーク「光の当たらないところに光を当てるとのこと」
実施日：3月9日 会場：築地本願寺 (東京都中央区)
登壇者：森達也さん (映画監督)／松本智量
- ・能登支援トークイベント「飯館から能登へ。被災地から見える課題」
実施日：3月4日

登壇者：猪股貴宏さん、長田卓也さん、小林美恵子さん (阿武隈クラブ IITATE)、本田徹さん (アーユス専門委員)、多田千鶴さん (珠洲市須須神社)、三村紀美子さん (アーユス会員、七尾市民生委員)

- ・新人賞トーク「未来への挑戦」

実施日：3月22日

登壇者：川村祐子さん (ACE)、小出愛菜さん (We Re:Act)、高橋みづきさん (アクセプト・インターナショナル)

●共催イベント

- ・ラージャーゴパールさん講演会

実施日：5月9日 会場：早稲田奉仕園 (東京都新宿区)

共催：シャプラニール＝海外協力市民の会 ほか

- ・映画上映会「原発をとめた裁判長」

実施日：6月3日、会場：早稲田大学

共催：APLA

- ・大学生ピースフォーラム

東京フィールドワーク 実施日：5月21日、場所：東京都新宿区／大阪フィールドワーク 実施日：6月4日 場所：大阪市生野区周辺／フィールドワーク振り返り報告会 実施日：6月27日／サーラ・スヴェンさん勉強会「加害の側が平和への道筋をつくるには - ドイツの事例に学ぶ」 実施日：7月28日 会場：JICA 地球ひろば (東京都新宿区)／韓国研修 実施日：8月22日～28日 場所：ソウル他／韓国研修振り返り報告会 実施日：9月23日／京都フィールドワーク 実施日：3月10日 場所：京都市東九条／大阪展トーク企画「今こそ平和と共生を考えるー対話による解決は可能か」 実施日：3月9日 場所：いくのパーク (大阪市生野区)

主催：KOREA こどもキャンペーン

- ・連続セミナー「ミャンマーからの声を聞く」

第1回：ミャンマーの民主化に向けて日本は何ができるか 実施日：12月13日

第2回：「闇を払う ミャンマー警察官が抵抗運動に加わるまで」 実施日：1月19日

第3回：「脅かされる川と暮らし 紛争地域での開発の見えない代償」 実施日：3月13日

共催：「#ミャンマー軍の資金源を断て」キャンペーン (メコン・ウオッチ、FoE Japan、武器取引反対ネットワーク、日本国際ボランティアセンター)、Progressive Voice

●協力イベント

- ・セミナー「ミャンマーの民主化を考える：国軍による見せかけの「選挙」と日本からできること」

実施日：6月4日 会場：法政大学（東京都新宿区）
登壇者：キンオンマーさん（Progressive Voice）／木口由香さん（メコン・ウォッチ）

- ・（有志開催）石川県七尾市から三村紀美子さんのお話を聞く会 実施日：1月16日
- ・子どもの絵画交流
南北 코리아 と日本のともだち展 実施日：11月1日～12月10日／ともだち展トーク「今こそ平和を考える」実施日：11月10日／ともだち展の日 実施日：11月25日 会場：ウェスレー財団（東京都港区）／絵画展「Drawing Hpoe」韓国パートナー団体との連携でアメリカおよび北アイルランドでの絵画展に作品を提供

（2）研修会

●主催事業

- ・NGO 組織強化シンポジウム「NGOの組織強化はなぜ必要か～現状と課題、NGOの可能性を考える」
実施日：2月6日
登壇者：栗田佳典さん（関西 NGO 協議会）、白木朋子さん（ACE）／田口裕晃さん（名古屋 NGO センター）

●協力事業

- ・ミャンマー軍の資金源を断て内部勉強会「キンオンマーさんとの意見交換会」実施日：5月30日
会場：常圓寺（東京都新宿区）
- ・NGO 有志内部勉強会「政府安全保障能力強化支援」
実施日：6月19日 会場：アーユス事務局
- ・その他 災害時のお寺の役割について考えるセミナーは未実施。ただし、能登半島地震を受けて水利用に関するセミナーの企画が始まった。

2）ネットワーク推進

アーユスに関わる方々（専門委員、NGO関係者、会員など）からの情報を収集しかつ発信する計画だったが、定期報告と掲載に留まった。一方で、専門委員とはセミナーの相談や実施を手がかりに連携の頻度をあげつつある。仏教者のグループには十分にコンタクトできなかったが、災害支援や防災、SDGsの取り組み（備災とエネルギー、ジェンダー）などで今後ゆるやかな協力をすすめていくきっかけを作った。

（1）NGO・寺院・市民ネットワーク

・協力先 NGO・関係寺院の情報収集と共有システムづくり

緊急救援の情報は、トルコ・シリア地震、モロッコ地震、ガザ紛争などでNGOの動きをフォローし、そ

の他アーユスが支援できない場合には、ホームページへの一覧掲載やメールでの案内で情報提供した。能登半島地震の際は、会員寺院やNGO等の動きをメーリングリストや一斉メールを活用して発信した。

・相談対応

NGO支援、物品寄付などが中心。会場提供の事例は少なかった。

（2）交流／多様な人が語り合う場

関西で対面交流を再開。オンラインでは、定期的なランチトークで意見交換の場を継続した。アーユスの活動に親和性のある仏教者の発掘には至らなかった。一方で、会員発案の企画も実施できた。

●協力したもの

会員有志企画「ムスリムの口で語られるパレスチナ」
実施日：12月17日

講師：山本直輝さん（アーユス専門委員）／中平了悟さん（理事）

●実施

・東海、関西での交流会・定例会

関西交流会「トルコ地震報告会」実施日：8月30日
会場：龍岸寺（京都市）

講師：吉椿雅道さん（CODE 海外災害援助市民センター）

・NGOランチトーク計8回開催し、のべ56名が参加

・専門委員の集い「日本の市民社会は、パレスチナ／イスラエルにおけるジェノサイドと植民地主義にいかに向き合うか」

実施日：12月2日

講師：今野泰三さん（アーユス専門委員、中京大学）

（4）寺院・地域活動サポート

・募金活動への声掛け、寄付品受付・バザーの実施

件数は微減したが、新規参加も続いており、アーユスへの参加の第一歩として呼びかけやすい手段となっている。

・行事／寺市参加

八王子市仏教会：はなまつり（4月3日@桑都テラス 八王子市）、ねはん会のつどい（2月15日@八王子市学園都市センター）、平和コンサート（4月23日@泉福寺 東京都江戸川区）、お施餓鬼（5月17日、6月17日@勝楽寺 町田市／7月8日@感通寺 東京都新宿区）、日蓮宗東京西部宗務所：いのり題目の日（10月27日@妙法寺 東京都杉並区）、御会式（11月18日@感通寺）、浄土真宗本願寺派東京教区青年僧侶協議会：成道会バザー（12月8日@築地本願寺、

東京都中央区)、アースデイ (3月20日@経王寺、東京都新宿区)

・清澄白河ピースマルシェ (APLA と共催)

(7月29日、9月30日、12月17日、2月3日@称名庵 東京都江東区)

(5) ネットワーク参加

<会員>移住者と連帯する全国ネットワーク、SDGs 市民社会ネットワーク、開発教育協会、関西 NGO 協議会、国際協力 NGO センター、名古屋 NGO センター、日本 NPO センター、仏教 NGO ネットワーク

<購読/その他>全国青少年教化協議会

<共同要請/賛同等> (カッコ内は呼びかけ団体等)

・8月24日 ワタシのミライ NO NUKES & NO FOSSIL ~再エネ100%と公正な社会を目指して~ (国際環境 NGO FoE Japan、国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン)

・8月24日 非正規滞在者に対する人道的な在留特別許可を求める声明 (移住者と連帯する全国ネットワーク)

・10月3日 要請書「改めて日本政府の対ミャンマー ODA の停止を求めます」(#ミャンマー軍の資金源を断てキャンペーン)

・10月11日 日本の NGO による外務省への要請文: イスラエル・パレスチナにおける武力行為の即時停止への働きかけを求めます (国境なき子どもたち、日本国際ボランティアセンター、パルシック、ピースウィングス・ジャパン)

・11月7日 NGO による外務省への要請文: 国際会議における「即時停戦」への働きかけを求めます (国境なき子どもたち、日本国際ボランティアセンター、パレスチナ子どものキャンペーン、パルシック、ピースウィングス・ジャパン、ヒューマンライツ・ナウ)

・12月1日 要請書「ミャンマー軍を利する ODA と公的資金供与事業の停止を日本政府に求めます」(#ミャンマー軍の資金源を断てキャンペーン) 他

・12月18日 「停戦を。」(日本国際ボランティアセンター、パレスチナ子どものキャンペーン、パルシック、ピースウィングス・ジャパン、ほか)

・1月30日 プレスリリース「ODA 円借款受注企業のミャンマーでの人権配慮に関する質問状を送付しました」(#ミャンマー軍の資金源を断てキャンペーン)

・2月5日 NGO による外務省への要請文: 日本政府による UNRWA への資金拠出一時停止の撤回を求めます (国境なき子どもたち、セーブ・ザ・チルドレン・

ジャパン、日本国際ボランティアセンター、パルシック、パレスチナ子どものキャンペーン、ピースウィングス・ジャパン、中東研究者有志呼びかけ人)

・3月8日 プレスリリース「ODA 円借款事業受注企業のミャンマーでの人権配慮に関する質問状への回答」(#ミャンマー軍の資金源を断てキャンペーン)

<ネットワーク参加>

仏教 NGO ネットワーク / 「宗教施設を地域資源とした防災減災プロジェクト (宗防災)」/ FBO 情報交換会 / 「G7 市民社会コアリション 2023」/ カンボジア市民フォーラム / KOREA 子どもキャンペーン

<委員などで参加>

全日本仏教会 国際交流審議委員会 (枝木)

浄土宗平和協会 専門委員 (枝木)

仏教 NGO ネットワーク 理事 (松本) / 企画委員 (枝木)

築地本願寺 築地新報編集委員 (枝木)

JANIC 「2023 年度外務省 NGO・スタディプログラム研修員応募に関わる相談アドバイザー」(井上)

・庭野平和財団平和賞奨励賞選考委員会 (枝木)

・NGO 非戦ネット運営委員 (井上)

<協力>

・NGO 非戦ネット院内集会&意見交換会「他国軍への武器無償援助『政府安全保障能力強化支援 (OSA)』を考える」(6/26 @参議院会館)

・仏教 NGO ネットワーク定期講演会「トルコ・シリア大地震 - アレッポの今」佐藤真紀さん (チーム BEKO) (6/26 @慈母会館)

・NGO 内部勉強会「少数民族の権利と女性の連帯に関する意見交換会」(10/12 @アユス事務所)

・NGO 非戦ネット内部勉強会「ウクライナ」(10/25 @常圓寺)

・NGO 非戦ネット院内集会「院内集会・他国軍への武器援助 OSA はどんな国に供与されるのか?」(11/20 @参議院会館)

・ジェファーソン・フェロウシッププログラム福島訪問コーディネーション (10/21~10/23 米国東西センター)

3) 開発教育事業

(1) ニュースレター

年次報告書の発行に留まった。

(2) 施本

年4回発行。全体的には横ばい状況だが、季節によっては大口利用者が出てきたために増加傾向が見られ

る。

(3) その他

開発教育協会による『ジェンダー視点で教育を見直すヒント集』の制作に協力。

3) 普及事業

(1) グッズ販売

年4回の施本の案内にあわせてグッズの販促をおこなったため、小口注文は増えた。対面で紹介する機会も戻りつつある。

30周年記念の一筆箋を、イラストレーターの中川学さんのご協力のもとに制作した。

(2) 出版

実施せず。

(3) 執筆・講演

次の表の通り、執筆講演を行ったほか、『築地本願寺新報』に編集委員として参加。経王寺の寺報にNGOの紹介を連載。

月	テーマ	派遣先／掲載先
4	【講演】取り残される女性たち	全日本仏教婦人連盟文化講座
5	【執筆】ミャンマークーデターから2年	BNNニュースレター
7	【執筆】ミャンマーの今、日本の責任・仏教の責任	女たちの如是我聞
9	すてきな人たち	経王寺寺報「はすのかほり」
10	井上団さんと共に考える国際協力NGOの魅力	NGOピボット魅力向上チーム
12	紛争とそれをめぐる諸問題との向き合い方	本願寺派講師養成中央実習

3. 組織運営・広報

1) 組織運営

(1) 組織運営

理事と事務局の連携は、事務局に余裕がないために「ソーシャルチェンジ支援」関連以外ではまだ取れていない。一方で、理事会の場においてグループディスカッションをするなど、具体的に意見交換する場を持つようになった。

インターンシップは、仏教NGOネットワークと共同を模索中。

・会員総会

2023年6月15日（会場：長専院+オンライン）

第一号議案 2022年度事業報告

第二号議案 2022年度決算報告

第三号議案 2023年度事業計画案

第四号議案 2023年度予算案

・理事会 下記の通り滞りなく開催された。

1回目 5月23日

第一号議案 中期計画2022年度の振り返り

第二号議案 2022年度事業報告案と決算案

第三号議案 新規NGO支援事業の名称について

第四号議案 2023年度事業計画案と予算案

第五号議案 その他（役割分担など）

2回目 9月28日

第一号議案 アーユス賞受賞者の選考・決定（大賞・特別功労賞）

第二号議案 30周年関連、これからのアーユスについての議論、ファンレイジング及び記念イベントについて

3回目 11月29日

第一号議案 2024年度「NGOソーシャルチェンジ支援」支援先の選考・決定

第二号議案 2023年度「アーユス賞」NGO新人賞の選考・決定

第三号議案 2023年度上半期中間報告・決算

4回目 1月30日

第一号議案 2024年度『街の灯』支援事業 支援先の選考・決定

第二号議案 アーユスの緊急時対応について

5回目 3月27日

第一号議案 『街の灯』支援事業の継続申請審査

第二号議案 中期方針・計画の確認

第三号議案 2024年度事業計画／予算案

2) 広報／ファンレイジング／支援者対応

ファンレイジング計画を試行錯誤した。30周年を機にこれまでの実績を示しつつ寄付を募ることをめざしたものの、方針を定めきれなかった。そのため新規支援者の開拓には至らず、年度末の記念式にあわせて既存の支援者からのご協力をいただくに留まった。

また年間を通じてアーユスへの支援をアピールできるよう、寺院には例年より早めの9月上旬に募金箱やポスターを配布して年末募金の実績をあげようことをめざし、いくつか反応をいただいた。ただし、年末募金の呼びかけ時期に緊急時への対応が求められたため、募金の目的を明確に伝えきれなかった点では、中途半端な結果に終わった。

クラウドファンディングは、NGO 新人賞の賞金と授賞式開催の諸費用を集めるために実施し、102万6千円集めることができた。しかし、これも支援者の広がりにつげられていない。

アユスの活動方針を明確に示していくことが、ファンドレイジングの軸を固めることにもつながるため、次年度はその点に留意しながら支援拡大に努めることが求められる。

決算報告（決算資料参照）

- ・当期正味財産増減額は、-1,179,000円 で赤字。
- ・繰越金のうち 6,954,162円 は指定寄付。
- ・寄付募金は、15,112,132円 で、目標の 17,000,000円 に至らなかった。
- ・アユス新人賞の賞金と授賞式の開催費用の大半はクラウドファンディングで集めることができた。
- ・バザーは再開し、9月と2月に開催。約30万円の売上だった。

・寄付者数推移

	寄付者人数
2023年度	458人
2022年度	554人
2021年度	477人
2020年度	463人
2019年度	376人

・マンスリーサポーター「結募金」参加者数

	結募金参加者数
2023年度	36人
2022年度	39人
2021年度	36人
2020年度	28人
2019年度	16人

・寄付内訳

一般寄付	6,643,545円
『街の灯』募金	1,884,644円
東日本大震災	20,820円
ウクライナ緊急	741,958円
トルコシリア緊急	917,597円
パレスチナ緊急	1,522,385円
能登半島地震	1,253,683円
ミャンマー	35,500円
新人賞	1,026,000円
結募金	1,066,000円

・会員状況

- 入会者数 3人（個人3人）
- 退会者数 8人（法人1人、個人7人）

2024年3月31日現在

- 特別賛助会員（25人）
- 法人会員（50人）
- 賛助会員（2人）
- 個人会員（178人）
- 学生（1人）

合計 256人

▼職員

- 事務局長 枝木美香
- NGO支援事業課長 井上団
- 研修・ネットワーク事業主任 寺西澄子

2024年度に向けて

中期計画の最終年となり、この3年間で達成できたこと、できなかったこと、その原因等を振り返り、さらに次の3年に向けての計画を立てます。30周年の振り返りを元に、これからのアユスがすべきことをより明確にし、組織基盤強化にも繋げたいと思います。

そのような中でも、紛争や自然災害が頻発し、その影響が長引くいま、迅速に対応し、かつ光が当たらないところに様々な形で光を当てるよう尽力します。仏教者・NGO・市民をつなぎ、社会課題解決のためのより良い知恵や資源を巡らせる特徴を生かした取り組みも、引き続き広げていきます。

1. 社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO をめざす。

仏教者・NGO・市民をつなぐハブとしての実績の周知を図り、アユスが相談先として認知されるよう努めます。引き続き国内外で自然災害や紛争が起きた時の支援を受け入れる窓口として、NGOなど市民グループの情報収集を行い迅速に動ける体制づくりを進めます。またNGOと寺院がそれぞれの知恵や資源を活用しあえる取り組みを実施します。

2. 不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光があたっていない人たちや課題に光を当てている活動や、活動している人たちに応援する。

アユスのNGO支援事業がめざすところがNGOと共有され、より強固なパートナーシップが築けるよう努めます。

セミナーの開催など共同事業を行うことで、少しでも多くの人たちに光が当たるよう取り組みます。

3. アユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

2023年度に引き続き、オンラインや対面でのセミナーやイベント、ウェブなどの媒体を活用した情報発信、交流を行います。

アユスのNGO支援事業と連動しながら、NGOと宗教者のネットワークを生かして次の視点から取り組みます。

① 時局に応じた課題を取り上げ、現場に近い人たちや研究者などの視点を織り交ぜながら、小規模でも意義のある活動につながるよう働きかける。

② メディア的にも注目が集まりづらくなった課題で、特にアユスがこれまで関わったものに光を当てる。

③ 上記のような課題を生み出す原因や社会の仕組みについてフォーカスし、改善に向けた取り組みを知り私たち自身の暮らしを振り返る機会を作る。

4. より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アユスの活動資金の安定化を図る。

アユスに協力する方法を明確に提示し、多様な方法でアユスに協力してもらえるよう働きかけます。30周年の実績をまとめて、それをもとにアユスの原点と展望を示し、対面の機会も増やしてさらなる支援を募ります。

5. 次世代の仏教者や市民がアユスの担い手となる仕組みをつくる。

役員と事務局の共同体制づくりに注力します。また次世代が参加できるような仕組み作りを引き続き行います。

1. 国際協力等を行う NGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO 支援事業）

国際協力に取り組む NGO の組織強化を支援するとともに、NGO・NPO と連携し、光が当たらないところに光を当てる活動に協力して、平和や人権のための活動を推進する。

1) ソーシャルチェンジ支援

アドボカシー活動を含める形で、NGO の視点から社会変革（ソーシャルチェンジ）を目指す活動を支援する制度で、2024 年度から開始。

2024 年度からは、熱帯林行動ネットワークの「紙製品を取り扱う日本企業に対する調達方針の策定と人権 DD の実施に向けた働きかけ」に協力する。

2) 『街の灯』支援

2020 年度に始まったプロジェクト支援制度。誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標（SDGs）」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組む NGO / NPO に原則 3 年間協力する。2025 年度からの支援団体の募集を行う。支援額の上限は 50 万円。より充実した支援事業となるよう、プログラムの強化を図る。

○新規支援（2024 年度～）

・「レバノン山間部の難民キャンプにおける脆弱な子どもたちへの学習支援」パレスチナ子どものキャンペーン

・「高校生奨学金プロジェクトー私たちはあなたを見捨てない」反貧困ネットワーク

○継続支援

・「非正規滞在家族の正規化に向けた取り組み及び生活支援事業」ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY

・「グアテマラ農村部での子どものための土曜学級」日本ラテンアメリカ協力ネットワーク

・「日韓みらい若者支援事業」アジア・コミュニティ・センター 21

・「ふくしま移住女性エンパワメント・プロジェクト」福島移住女性支援ネットワーク

3) 時局対応支援

自然災害や紛争時に、被災地での救援・復興活動が迅速にかつ円滑に行われるような支援を行う。また、国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動などが実施される場合にも協

力する。

2022 年度に開始したウクライナ緊急救援とトルコ・シリア大地震緊急救援、2023 年度に開始したパレスチナ・ガザ地区緊急救援と能登半島地震緊急救援にも、引き続き協力する。

2021 年度から協力しているミャンマーでおきたクーデター関連の活動にも、継続して参加する。

国内で自然災害がおきた場合にアユスへの要請や支援申請があった場合は、「国内災害支援規程」に基づいた対応を行う。

また、緊急救援に動く団体の情報収集を行い、災害や紛争などが起きた時に迅速に対応できる体制を整える。

●福島・脱原発支援

これまでのパートナー団体や支援協力者との交流を続けながら、情報発信やキャンペーン活動を実施する。

4) アユス賞

日本の国際協力 NGO 活動で多大な功績のあった NGO 関係者に対して NGO 大賞（茂田賞）、今後の国際協力 NGO 界を支えていくことが期待される有望な人材に対して NGO 新人賞（奨励賞）、さらに、仏教の縁に基づいた国際協力や地域づくりを志し、アユスの活動に対する多大な貢献や協力があった寺院もしくは個人に対して特別功労賞をそれぞれ授与する。年度末に授賞式の開催予定。

2. 国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（研修・ネットワーク事業）

仏教者・NGO 関係者、市民が出会い、学び合い、協力しながら、より良い世界のあり方を実践的に探る。

1) 研修・研究・啓発

NGO と宗教者のネットワークを生かしながら、時局に応じた内容、光の当たらない課題、暮らしや価値観への問いかけを軸に、セミナーや文字媒体での情報発信をする。

また KOREA 子どもキャンペーンや #ミャンマー軍の資金源を断てキャンペーンなどへの参加を通じて、啓発活動や研修に協力参加を続ける。

(1) セミナー／啓発

① 時局に応じた課題を取り上げ、現場に近い人たちや研究者などの視点を織り交ぜながら、小規模で

も意義のある活動につながるよう働きかける。

② メディア的にも注目が集まりづらくなった課題で、特にアユスがこれまで関わったものに光を当てる。

③ 上記のような課題を生み出す原因や社会の仕組みについてフォーカスし、改善に向けた取り組みを知り私たち自身の暮らしを振り返る機会を作る。(例: 福島やエネルギー関連、能登半島地震からの教訓など)

(2) 研修会

- ・ NGO 勉強会など、NGO 向けの研修の実施
- ・ 災害時のお寺の役割など、寺院・仏教者向けのセミナーの実施。特に昨年度、制作に協力した『ジェンダー視点で教育を見直すヒント集』を用いた研修会を開催する。

2) ネットワーク推進

アユスとハブとしたネットワークがより良く活用されるように、協力先 NGO や関係寺院、仏教者からアユスへのニーズを能動的に集め、定期的な情報発信や事例紹介につなげる。また専門委員とその所属団体や仏教系グループとの連携により知恵を巡らせる。

(1) NGO・寺院・市民ネットワーク

- ・ 平和構築や気候危機などのネットワーク運動に参加する。(例: KOREA こどもキャンペーン、NGO 非戦ネットなど)
- ・ 相談対応
- ・ 他団体との連携

【団体会員】

国際協力 NGO センター、関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センター、開発教育協会、仏教 NGO ネットワーク、日本 NPO センター、SDGs 市民社会ネットワーク、移住者と連帯する全国ネットワーク、の計 8 団体について、団体会員として協力し連携を図る。

【ネットワーク参加】

仏教 NGO ネットワーク、FBO 情報交換会、カンボジア市民フォーラム、KOREA こどもキャンペーン

【他団体の委員参加】

浄土宗平和協会(専門委員)、築地本願寺新報(編集委員)、庭野平和財団平和賞奨励賞(選考委員)、など

(2) 交流/多様な人が語り合う場

- ・ 多様なセクターの人たちが発言できる場づくり

(Web、紙面、音声ほか)の模索

- ・ 専門委員や会員の会報誌やウェブへの寄稿、セミナー等の講師依頼
- ・ 交流会/定例会: 東海、関西を含め、会員・支援者・NGO と交流を深める企画の実施、状況に応じてフィールドスタディの実施
- ・ NGO ランチトークの継続
- ・ 専門委員の集い

(3) 寺院/地域との協働

- ・ お寺という場の活用: 会場を提供したいという会員・支援者との協働を探る
- ・ 総会など関係者のあつまる場や寺市への積極的な参加
- ・ 自然災害の際の連携
- ・ 寄付品受付とバザー開催の協力体制の強化
- ・ その他、相談や問い合わせに積極的に対応する。

3) 開発教育

- ・ ニュースレターの発行を年に 2 回とし、それ以外には活動報告書を作成して送る。
- ・ 施本を年 4 回発行し、頒布数が伸びるよう広報にも力をいれる。
- ・ 30 周年の振り返りをまとめる

4) 普及事業

- ・ 物品販売や執筆講演により、アユスの活動を広く広める。
- ・ 清澄白河ピースマルシェの不定期開催

3. 組織運営・広報

1) 組織運営

- 通常業務の他、以下の活動に取り組む
- ・ インターンシップの受け入れと制度の確立
 - ・ 中期計画の振り返りと策定
 - ・ 理事/専門委員制度の見直し
 - ・ 理事会と事務局の共同体制の推進
 - ・ 経理と労務業務の整理と見直し

2) 広報/ファンドレイジング/支援者対応

2024 年度は、ファンドレイジングの年間計画のもと、計画的な取り組みを行うのと同様に、明確な活動方針の元に呼びかけを行います。

またセミナーや「物でお布施」の参加者のフォローアップを行うことと、アユスへの協力の仕方をわかりやすく明示することで、新規協力者の開拓に努

めます。

- ・ファンドレイジング戦略と年間計画の策定
- ・寄付者／セミナーの参加者のフォローアップ
- ・クラウドファンディングへの挑戦
- ・アーユスの活動方針を明確に示すことと、広報の充実化

2024 年度アーユス役員候補

(2024 年 7 月 1 日～ 2026 年 6 月 30 日)

<理事>

大橋正明 (聖心女子大学・国際協力 NGO センター)

枝木美香 (アーユス事務局)

神田浩史 (泉京・垂井)

熊岡路矢 (日本映画大学)

菅原智之 (浄土真宗本願寺派高林寺)

瀬野美佐 (女性と仏教・関東ネットワーク)

遠山章信 (浄土真宗本願寺派正福寺)

中平了悟 (浄土真宗本願寺派西正寺)

中村絵乃 (開発教育協会)

福田行慈 (浄土宗本誓寺)

本多静芳 (浄土真宗本願寺派万行寺)

松本智量 (浄土真宗本願寺派延立寺)

水谷浩志 (浄土宗法雲寺)

持田貫信 (日蓮宗本久寺)

<監事>

池田未樹 (池田未樹税理士事務所)

関口宏聡 (セイエン)

2023 年度監査報告

2023 年度 監査報告書

特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワークの
2023 年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施さ
れ、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と
認められる会計原則に基づいて作成されていることを認め
ます。

2024 年 5 月 20 日

監事

関口 裕聡

監事

池田 未樹 

2024 年度アユス専門委員

(敬称略：五十音順)

浅川和也 (明治学院大学) 平和教育、対立・紛争解決・英語教育
池住義憲 (日本イラク医療支援ネットワーク JIM-NET) 平和学、国際関係、国際協力、地域開発、開発教育、地域保健、他
池田未樹 (税理士) 会計・税務
石井宏明 (パスウェイズジャパン) 難民支援、NGO / NPO
稲場雅紀 (アフリカ日本協議会) 世界の社会運動、国際政治、アフリカ、国際保健政策、HIV/AIDS、感染症対策、他
今野泰三 (中京大学) 中東地域研究、平和学
上村英明 (市民外交センター) 国際人権法/先住民の権利、脱植民地主義、平和学/平和教育、市民教育、民主主義教育
大橋正明 (聖心女子大学グローバル共生研究所) NGO/NPO 論、南アジア地域研究
甲斐田万智子 (国際子ども権利センター) 子どもの権利、児童労働、人身売買、性的搾取、開発教育、ジェンダーなど
郭辰雄 (コリア NGO センター) 外国人の人権保障、多民族共生
柏崎正雄 (アカー) 性的指向・性自認、LGBT、HIV/エイズに関する問題や支援について
神田浩史 (泉京・垂井) まちづくり、アドボカシー、水、フェアトレード、国際協力、環境、食・農など
木口由香 (メコン・ウォッチ) 大規模開発による環境社会影響の防止・軽減、メコン河流域の人々の環境・社会問題の映像の記録等
金敬黙 (早稲田大学文学学術院) 平和研究、東アジア市民社会、トランスナショナル、グローバルアジア研究
沢田貴志 (港町診療所) 内科医・公衆衛生士、外国人の保健医療
釈徹宗 (相愛大学) 比較宗教思想、宗教文化
神仁 (全国青少年教化協議会) 仏教教育、臨床仏教、電話&オンライン・カウンセリング、Engaged Buddhism
関口宏聡 (セイエン) NPO 法、認定 NPO 法人制度、寄付税制、アドボカシー、ロビイング、ファンドレイジング
田中優 (未来バンク) 環境、平和、社会的金融
田中好子 (パレスチナ子どものキャンペーン) パレスチナ問題、中東和平、難民、NGO の支援事業など
寺中誠 (東京経済大学) 刑事政策論、人権論・国際人権法、国際刑事法
土井佳彦 (多文化共生リソースセンター東海) 多文化共生、地域日本語学習支援、災害時外国人対応
中村絵乃 (開発教育協会) 開発教育、持続可能な開発のための教育、市民教育、対立解決教育、ファシリテーション、など
林達雄 (アフリカ日本協議会) 保健、災害 (干ばつ)、気候変動
深草亜悠美 (国際環境 NGO FoE Japan) 気候変動、エネルギー
古沢広祐 (國學院大學研究開発推進機構) 環境社会経済学、持続可能社会論、有機農業・食糧農業問題
星野哲 (立教大学社会デザイン研究所) ライフエンディング (看取り、葬送、医療・介護、寺院など)
本田徹 (シェア=国際保健協力市民の会) 国際保健協力、公衆衛生、内科臨床 (在宅医療)
源由理子 (明治大学) 評価研究、社会開発論
目加田説子 (中央大学) 国際公共政策、NPO・NGO、非人道兵器
山本直輝 (トルコ国立マルマラ大学大学院トルコ学研究科アジア言語・文化専攻) イスラーム思想・社会運動

顧問

十河 章 (真言宗善通寺派志度寺)

事務局体制

事務局長 枝木美香

NGO 支援事業課長 井上団

研修・ネットワーク事業主任 寺西澄子